高岡地区事業所
景況レポート

2026年7～9月期

今期（2026年7～9月期）実績、来期（2026年10～12月期）見通し

このレポートは、高岡市内194社、射水市20社、その他4社の合計218社について景気の現況と見通しを調査したものです。
（回答182社、83.5％）

高岡信用金庫

今期（7～9月）は、製造業・卸売業の一部および小売業、サービス業を除く業種では、売上、収益ともに前期を上回る結果となった。特に、製造業の一部や卸売業の大半の業種、および不動産業では前期の見通し予想を大きく下回った。

来期（10～12月）については、建設業、木材業、および製造・卸売業の一部を除き、売上、収益ともに今期比上昇を見込んでいる。

◇概　況

2026年8月の有効求人倍率は、全国平均1.18倍で、前月と同水準であった（富山県は1.48倍で前月比0.02ポイント上昇）。

一方、9月の国内企業物価指数（速報値）は前月比で▲0.3％と2カ月連続のマイナスとなり、前年比では＋6.8％と前月から0.8ポイント縮小した。また、今期（ただし7～8月）の消費活動指数（季節調整済・旅行収支調整済）は106.3（2020年＝100）となり、前期（4～6月）比▲1.0％であった。月別では7月106.7、8月は105.8であった。（日本銀行HPより）

当庫の調査においては、今期（7～9月）の景況感（D.I.）は、売上、収益ともに、2期連続で前期を上回る結果となった。

来期（10～12月）についても、売上、収益ともに上昇する見通しとしている。

令和8年7月～9月期の日経平均株価は、7月にAI過剰投資懸念や中東情勢の緊迫化を受け61,000円台まで大幅下落したものの、8月中旬には好調な企業決算やAI過剰投資懸念の後退などから69,000円台まで上昇した。その後、9月にかけては、長期金利の上昇や中東情勢悪化を受けた原油高などから下落し、66,753円で引けた。

【日経平均株価】（単位：円）

	最　高	最　低
7月	70,474	61,434
8月	69,220	63,754
9月	66,753	63,484

◇業　況

今期（7～9月期）の全業種の業況（前年同期と比較した増減率の平均）は、売上額▲0.8％、売上数量▲1.9％、収益が▲1.0％となり、前期（4～6月期）との比較においては、売上額は0.6ポイント上昇、売上数量は1.5ポイント上昇、収益でも2.0ポイント上昇した。

また、今期における全業種平均での売上額D.I.は、前期より0.4ポイント上昇の▲18.2、収益D.I.も3.8ポイント上昇の▲20.1となり、いずれも2期連続での前期比上昇となった。

来期（10～12月期）見通しの全業種平均のD.I.では、売上額で今期より12.6ポイント上昇し▲5.6、収益では今期より9.9ポイント上昇の▲10.2を予想している。

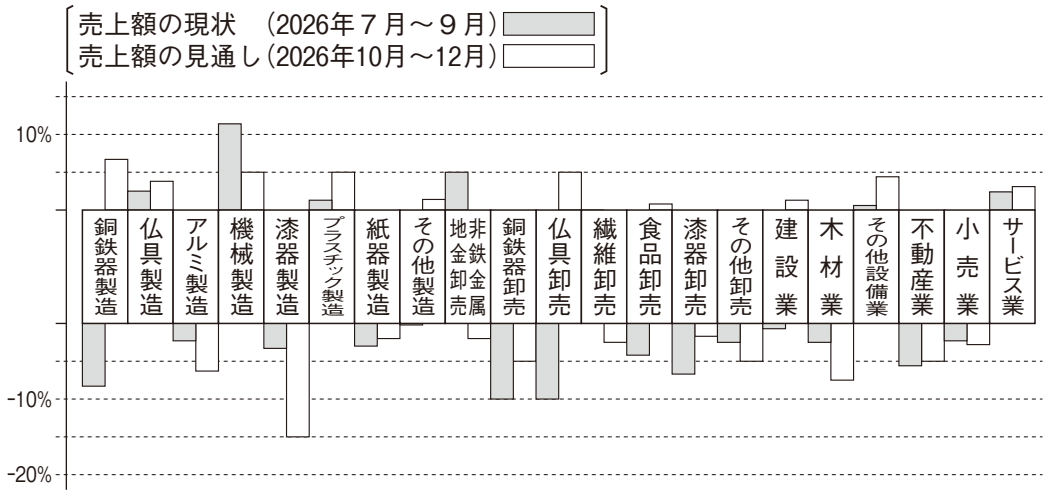
	５％以内		－５％以内
	10％以内		－10％以内
	20％以内		－20％以内
	20 ％ 超		－20 ％ 超

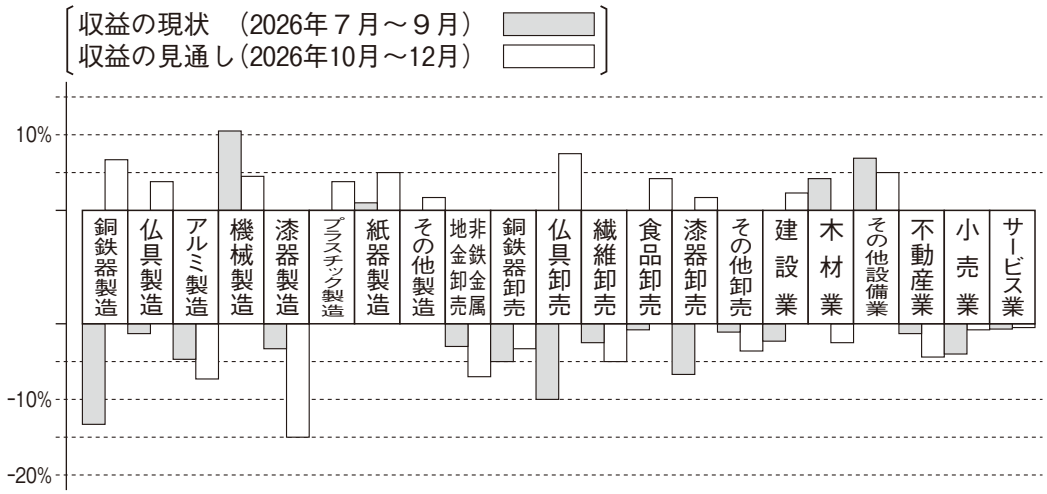
景況天気図（売上額、数量、収益）

業種		7～9月期見通し	10～12月期見通し
全体			
製造業	全般		
	一般銅鉄器		
	仏具		
	アルミ		
	機械		
	漆器		
	プラスチック		
	紙器		
	その他製造業		
卸売業	全般		
	非鉄金属地金		
	銅鉄器		
	仏具		
	繊維		
	食品		
	漆器		
	その他卸売業		
設備関係業	全般		
	建設		
	木材		
	その他設備業		
不動産業			
小売業			
サービス業			

1．全業種総合

売上額と収益の現状及び見通し（対前年同期比増加率）





売上額と収益の推移（対前期比）

〔売上額（受注額）〕　（%）

	2025年 10月～12月	2026年 1月～3月	2026年 4月～6月	2026年７月～９月		2026年10月 ～12月予想
				見通し	実　績	
増　　加	35.4	22.6	27.3	24.7	25.8	29.4
変わらず	28.7	23.7	26.8	35.0	30.2	35.6
減　　少	35.9	53.7	45.9	40.3	44.0	35.0
「増加」－「減少」	▲ 0.5	▲31.1	▲18.6	▲15.6	▲18.2	▲ 5.6

〔収　　益〕　（%）

	2025年 10月～12月	2026年 1月～3月	2026年 4月～6月	2026年７月～９月		2026年10月 ～12月予想
				見通し	実　績	
増　　加	30.7	18.7	22.2	18.9	25.7	23.7
変わらず	36.3	35.0	31.7	36.6	28.5	42.4
減　　少	33.0	46.3	46.1	44.5	45.8	33.9
「増加」－「減少」	▲ 2.3	▲27.6	▲23.9	▲25.6	▲20.1	▲10.2

◇売上額D.I.(「増加」－「減少」の社数構成比)

今期(7～9月期)の全業種総合の売上額D.I.は、▲18.2となり、前期(4～6月期)に比べ0.4ポイント上昇。

来期(10～12月期)についてのD.I.は、▲5.6と、今期に比べ12.6ポイントの上昇を予想している。

◇収益D.I.(「増加」－「減少」の社数構成比)

今期(7～9月期)の全業種総合の収益D.I.は、▲20.1となり、前期(4～6月期)に比べ3.8ポイントの上昇。

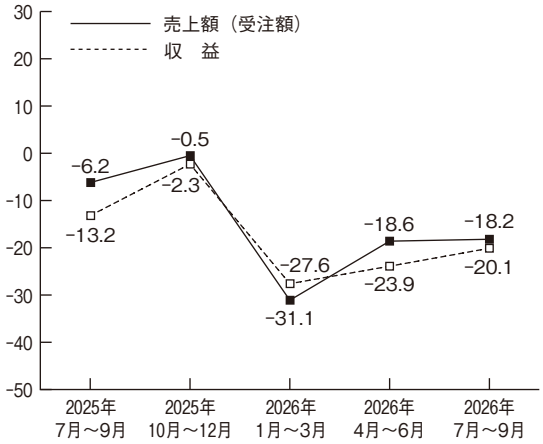
来期(10～12月期)についてのD.I.は、▲10.2と、今期に比べ9.9ポイントの上昇を予想している。

◇在庫数量D.I.(「増加」－「減少」の社数構成比)

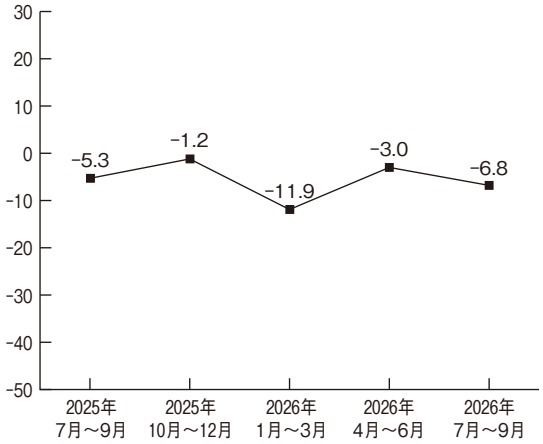
今期(7～9月期)の全業種総合の在庫数量D.I.は、▲6.8となり、前期(4～6月期)に比べ3.8ポイントの低下となった。

来期(10～12月期)についてのD.I.は、▲4.6と、今期に比べ2.2ポイントの上昇を予想している。

〔売上額　収益D.I.推移表〕



〔在庫数量D.I.推移表〕



〔資金繰り〕　(%)

今期順位	項　目	構成ウェイト	
		今　期	前　期
1	変わらず	69.1	68.5
2	やや苦しい	15.5	17.4
3	やや楽	11.0	7.3
4	苦しい	2.2	3.4
4	楽	2.2	3.4

〔経営上の問題点〕　(%)

今期順位	項　目	構成ウェイト	
		今　期	前　期
1	売上･受注の停滞･減少	20.0	25.4
2	原(材)料価格の上昇	13.8	14.8
3	人手不足	9.9	9.5
4	人件費の増加	8.4	5.4
5	仕入先からの値上げ要請	7.2	9.1

2．製造業

現　状	見通し
	

◇概　況

製造業全般における今期の前年同期(1年前)と比較した増減率の平均は、売上額0.8%、売上数量▲0.9%、収益▲0.1%となった。前期比では、売上額で3.0ポイントの増加、売上数量で2.5ポイントの増加、収益では3.8ポイントの増加となり、売上額、売上数量は2期連続の増加、収益は3期連続の増加となった。

製造業の内、機械製造のみが売上額、売上数量、収益ともに前年同期比で増加し、アルミ、機械、漆器、プラスチック、紙器が対前期比で増加した。

今期の製造業全般における売上額D.I.は、前期より3.5ポイント上昇し▲12.1となり、収益D.I.も0.3ポイント上昇し▲20.0となり、いずれも2期連続の前期比上昇となった。

来期見通しのD.I.については、売上額で6.0と今期より18.1ポイント上昇、収益においても今期より16.9ポイント上昇の▲3.1を予想している。

経営上の問題点については、「売上・受注の停滞・減少」との回答が22.1%と最も多く、次いで「原(材)料価格の上昇」が17.5%であった。また、「人手不足」が前期比3.0ポイント増加し、第3位であった。

（銅鉄器）
銅鉄器製造における売上額D.I.は、前期に比べ33.3ポイント上昇し33.2、収益D.Iは、0.1ポイント低下し▲33.4となった。
来期についてのD.I.は、売上額、収益ともに66.8ポイントの上昇を予想している。
在庫水準は、適正が66.7%、やや少ないが33.3%であった。

（アルミ）
アルミ製造における売上額D.I.は、前期に比べ5.5ポイント上昇し▲13.4、収益D.I.は前期に比べ27.5ポイント低下の▲40.0となり、いずれも7期連続のマイナスとなった。
来期についてのD.I.は、売上額で今期と同水準の▲13.5、収益ではさらに6.7ポイント低下の▲46.7を予想している。
在庫水準は、適正が85.7%、やや多いが7.2%、多いが7.1%との回答であった。

（機　械）
機械製造における売上額D.I.は、前期に比べ9.0ポイント上昇し9.0となったが、収益D.I.は前期に比べ12.4ポイント上昇するも▲0.1となり、6期連続のマイナスとなった。
一方、来期についてのD.I.は、売上額で18.2ポイント上昇の27.2、収益でも36.4ポイントと大きく上昇し36.3を予想している。
在庫水準は、適正が60.0%、やや多い、やや少ないが20.0%との回答であった。

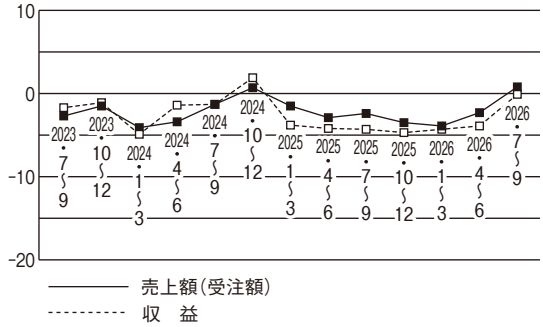
（漆　器）
漆器製造におけるD.I.は、売上額で前期と同じ▲33.4、収益は33.3ポイント低下の▲100.0であった。
来期についてのD.I.は、売上額で今期同様の▲33.4、収益も今期と同様の▲100.0を予想している。
在庫水準は、適正が66.7%、少ないが33.3%との回答であった。

（プラスチック）
プラスチック製造における売上額D.I.は、前期に比べ75.0ポイントと大幅な上昇で50.0、収益D.I.も25.0ポイント上昇の0.0となり、いずれも3期ぶりのプラスとなった。
来期についてのD.I.は、売上額で今期と同じ50.0、収益では50.0上昇の50.0を予想している。
在庫水準は、適正が75.0%、やや多いが25.0%であった。

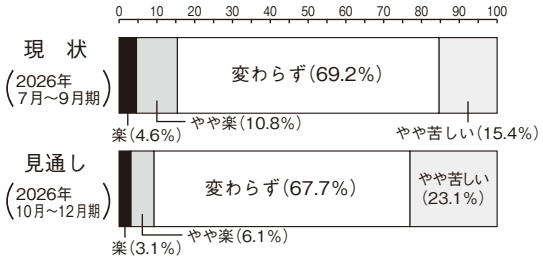
（紙　器）
紙器製造における売上額D.I.は、前期に比べ20.0ポイント上昇の▲20.0、収益D.I.は40.0ポイント上昇の0.0と売上額、収益ともにほぼ前期の予想を上回り、いずれも2期連続で前期比プラスとなった。
来期についてのD.I.については、売上額で今期と同じ▲20.0、収益でも今期と同様の0.0を予想している。
在庫水準は、適正、やや多い、やや少ない、少ないがいずれも25.0%であった。

（仏　具）
仏具製造における売上額D.I.は、前期に比べ50.0ポイント低下の▲25.0、収益D.I.は、25.0ポイント低下し▲50.0となった。
来期についてのD.I.は、売上額で今期と同じ▲25.0、収益では25.0ポイント上昇の▲25.0を予想している。
在庫水準は、適正、やや少ないがいずれも50.0%であった。

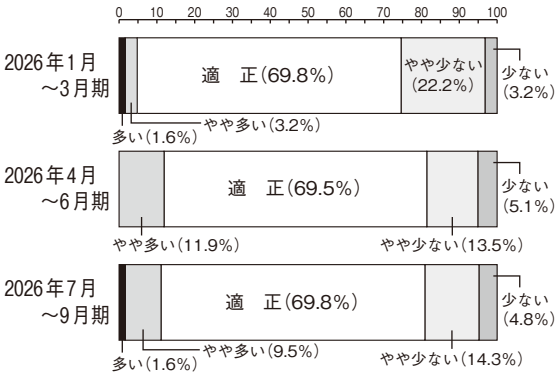
〔売上額、収益の動き（対前年同期比）〕



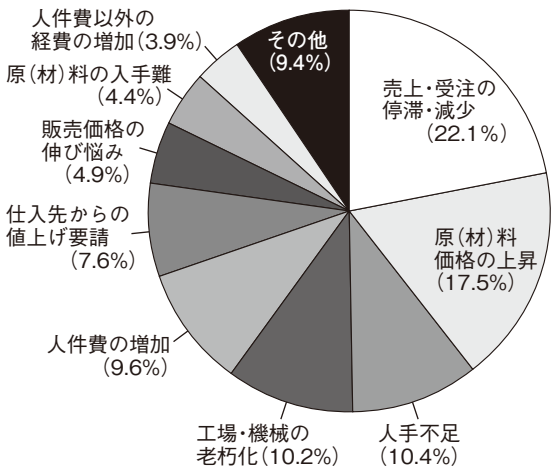
〔資金繰りの現状と見通し〕



〔手持ち在庫の動き〕



〔経営上の問題点〕



3．卸売業

現　状	見通し
◣	◣

◇概　況

卸売業全般における今期の前年同期(1年前)と比較した増減率の平均は、売上額▲3.6%、売上数量▲5.4%、収益▲2.9%となり、前期比では、売上額で3.7ポイント、売上数量で3.5ポイント、収益では1.9ポイントといずれも減少した。

卸売業の内、売上額、売上数量、収益ともに対前年同期比、対前期比で増加した業種は無かった。

今期の売上額D.I.は、前期に比べ19.3ポイント低下し▲34.1、収益D.I.も前期比4.5ポイント低下し▲21.7となり、売上額、収益ともに3期連続のマイナスとなった。

来期についてのD.I.は、売上額で28.6ポイント上昇の▲5.5、収益では7.8ポイント上昇の▲13.9を予想している。

経営上の問題点については、「売上・受注の停滞・減少」が21.7%で最上位であり、次いで「原(材)料の入手難」が9.5%、「競争の激化」が9.0%であった。

(非鉄金属地金)

非鉄金属地金卸における売上額D.I.は、前期に比べ60.0ポイントと大きく低下し▲40.0、収益D.I.も20.0ポイント低下の0.0となった。

来期についてのD.I.は、売上額で今期比40.0ポイント上昇の0.0、収益は20.0ポイント低下の▲20.0を予想している。

経営上の問題点については、「原(材)料の入手難」が26.7%で3期連続で最上位であった。

(銅鉄器)

銅鉄器卸における売上額D.I.は、前期比83.5ポイント上昇し16.7、収益D.I.は前期比33.3ポイント上昇し0.0であった。

来期についてのD.I.は、売上額で0.1ポイント低下の16.6、収益は16.6ポイント上昇の16.6を予想している。

経営上の問題点では、「売上・受注の停滞・減少」が31.4%で最上位であった。

(仏　具)

仏具卸におけるD.I.は、売上額で前期と変わらず▲50.0、収益は前期比50.0ポイント上昇の0.0となった。

来期についてのD.I.は、売上額で100.0ポイント上昇の50.0、収益は今期と同様の0.0を予想している。

経営上の問題点については、「売上・受注の停滞・減少」と「販売価格の伸び悩み」がいずれも25.0%となり最上位であった。

(繊　維)

繊維卸におけるD.I.は、売上額で前期比50.0ポイント上昇の0.0となり、収益では前期と変わらず▲50.0であった。

来期についてのD.I.は、売上額で50.0ポイント低下の▲50.0を予想の一方、収益では50.0ポイント上昇の0.0を予想している。

経営上の問題点については、前期同様、「売上・受注の停滞・減少」が50.0%で最上位であった。

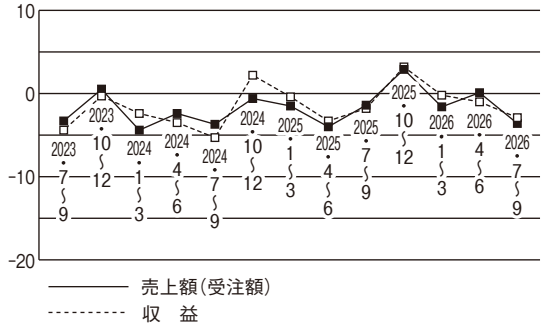
(食　品)

食品卸における売上額D.I.は、前期に比べ50.1ポイント低下の▲16.7、収益D.I.も16.6ポイント低下し▲16.7となり、いずれも前期での予想を大きく下回った。

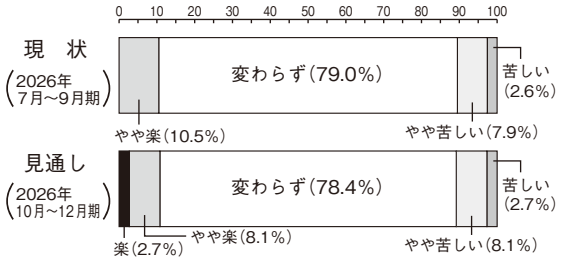
来期についてのD.I.は、売上額で66.6ポイント上昇の49.9、収益でも33.2ポイント上昇の16.5を予想している。

経営上の問題点については、前期2位であった「原(材)料価格の上昇」が21.2%で最上位となった。

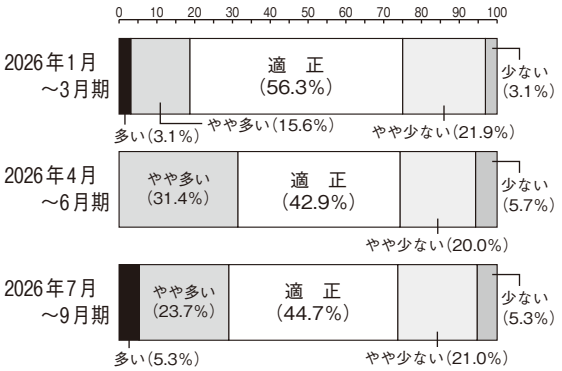
〔売上額、収益の動き(対前年同期比)〕



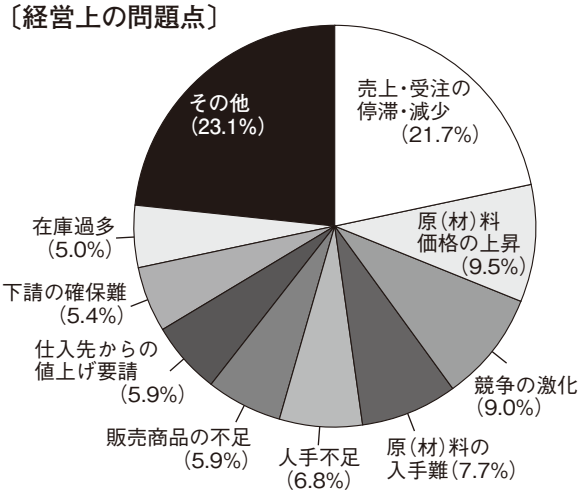
〔資金繰りの現状と見通し〕



〔手持ち在庫の動き〕



〔経営上の問題点〕



4．設備関係業

現　状	見通し
	

◇概　況

設備関係業全般における今期の前年同期(1年前)と比較した増減率の平均は、売上額▲0.7%、売上数量▲0.5%、収益1.6%となった。前期比では、売上額で1.5ポイント減少の一方、売上数量は3.2ポイント、収益では4.9ポイントといずれも増加となった。

設備関係業の内、その他設備のみが売上額、売上数量、収益ともに対前年同期比で増加し、建設のみが対前期比で増加した。

来期は、売上額で今期比1.0%、収益で0.5%の増加を見込むが、売上数量では0.7%の減少を予想している。

今期の売上額D.I.は、前期に比べ36.6ポイント上昇し▲6.9、収益D.I.も33.3ポイント上昇し▲3.4と前期での予想を上回ったが、いずれも7期連続のマイナスとなった。

来期についてのD.I.は、売上額で10.4ポイント低下の▲17.3、収益でも10.4ポイント低下の▲13.8を予想している。

経営上の問題点については、前回3位であった「人手不足」が18.1%(前期比+2.0%)で最上位となり、次いで「原(材)料価格の上昇」が15.5%であった。

(建　設)

建設業における売上額D.I.は、前期比46.7ポイント上昇の▲13.4、収益D.I.も前期比53.3ポイント上昇の▲0.1となり、いずれも前期での予想を上回ったが、6期連続のマイナスとなった。

来期についてのD.I.は、売上額で今期比6.7ポイント低下の▲20.1、収益は今期と同様の▲0.1を予想している。

経営上の問題点については、「原(材)料価格の上昇」が19.8%(前期比▲3.1%)と前期に続き最上位となり、前期3位であった「人手不足」は18.5%(前期比+4.0%)と第2位であった。

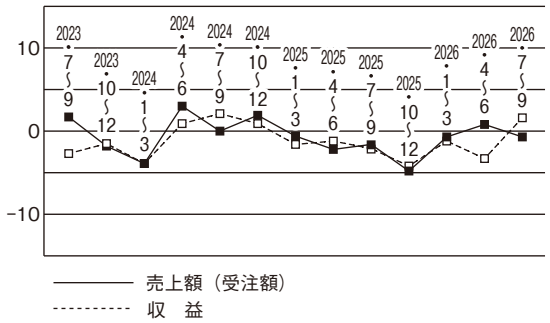
(木　材)

木材業における売上額D.I.、収益D.I.は、いずれも前期に比べ56.5ポイント上昇し16.5となり、5期ぶりのプラスとなった。

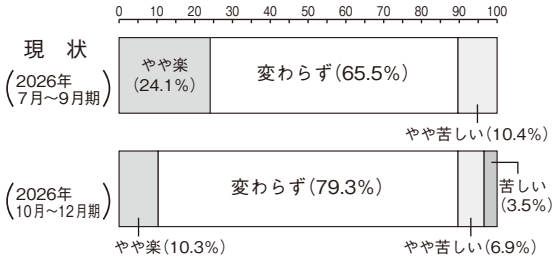
一方、来期についてのD.I.は、売上額、収益ともに99.8ポイントと大幅に低下し、いずれも▲83.3を予想している。

経営上の問題点については、「売上・受注の停滞・減少」が27.3%(前期比▲3.7%)で最上位となり、「仕入れ先からの値上げ要請」が18.2%(前期比+11.3%)で第2位であった。

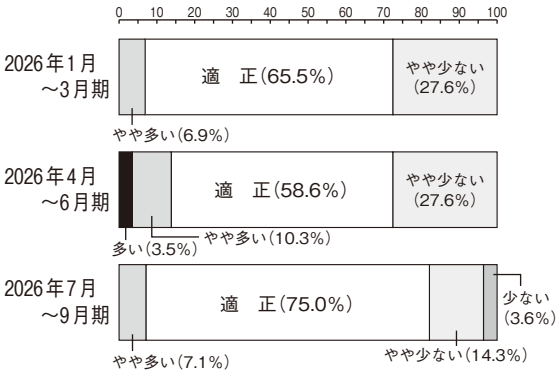
〔売上額、収益の動き(対前年同期比)〕



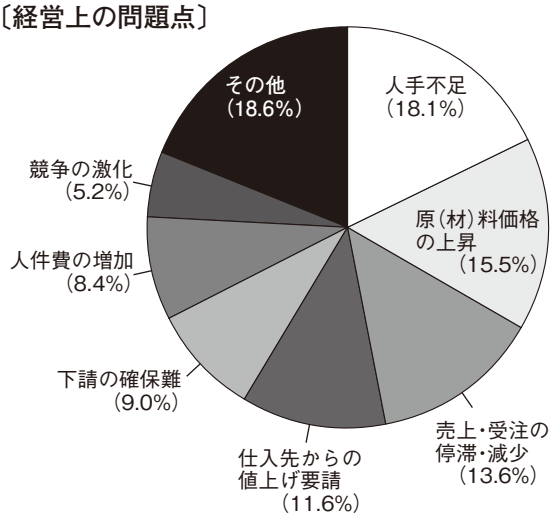
〔資金繰りの現状と見通し〕



〔手持ち在庫の動き〕



〔経営上の問題点〕



〔参　考〕

高岡市、富山市、射水市、砺波市に於ける新設住宅着工戸数

項目 / 期間	高岡市		富山市		射水市		砺波市	
	総戸数	内、木造	総戸数	内、木造	総戸数	内、木造	総戸数	内、木造
2025年６月 ～ ８月	146	129	540	479	106	96	47	46
2025年９月 ～ 11月	192	179	557	479	93	83	58	29
2025年12月 ～ 2026年２月	139	114	424	321	79	79	33	24
2026年３月 ～ ５月	175	166	491	413	108	94	61	59
2026年６月 ～ ８月	150	148	689	586	136	136	48	48

（富山県庁ホームページより引用）

高岡市に於ける利用関係別新設住宅着工戸数（2026年6月～8月）　　（　）内は前年同期比

	持　家	貸　家	給与住宅	分譲住宅	計
一 戸 建	96　（＋20）	0　（± 0）	0　（± 0）	28　（＋ 2）	124　（＋22）
長　　屋	0　（± 0）	16　（▲14）	0　（± 0）	0　（▲14）	16　（▲28）
共同住宅	0　（± 0）	10　（＋10）	0　（± 0）	0　（± 0）	10　（＋10）
計	96　（＋20）	26　（▲ 4）	0　（± 0）	28　（▲12）	150　（＋ 4）

（富山県庁ホームページより引用）

５．不動産業

現　状	見通し
	

◇概　況

不動産業における今期の前年同期（1年前）と比較した増減率の平均は、売上額▲5.6%、売上数量▲5.6%といずれも4期連続のマイナスとなり、収益でも▲1.3%と3期連続のマイナスとなった。

来期は、売上額で0.6ポイント増加の▲5.0%、売上数量で1.9ポイント増加の▲3.8%、収益では3.1ポイント減少の▲4.4%を予想している。

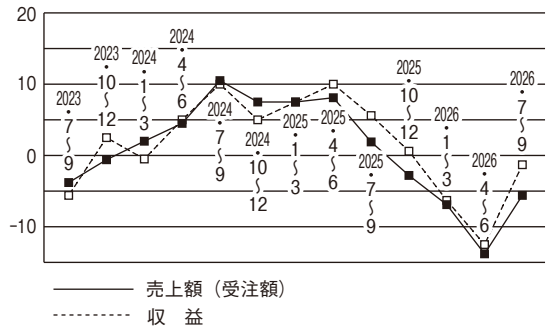
今期の売上額D.I.は、前期と同じ▲50.0となり、収益D.I.は前期比12.5ポイント上昇の▲50.0であった。

来期についてのD.I.は、売上額、収益ともに今期比25.0ポイント上昇の▲25.0を予想している。

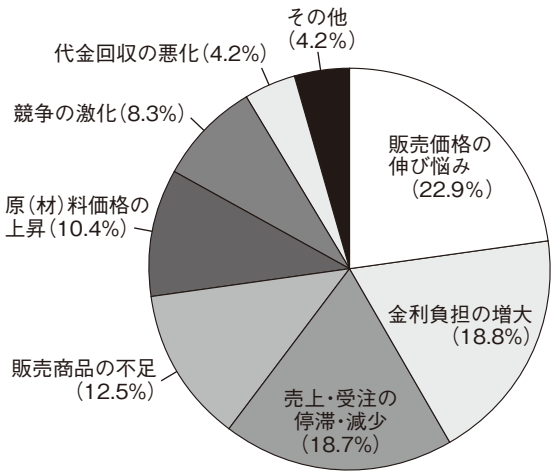
在庫水準については、やや少ないが50.0%、適正が25.0%、やや多いと少ないが12.5%との回答であった。

経営上の問題点については、前期2位であった「販売価格の伸び悩み」が同じく22.9%（前期比▲0.9%）で最上位となり、次いで前期7位であった「金利負担の増大」が18.8%（前期比＋14.0%）であった。

〔売上額、収益の動き（対前年同期比）〕



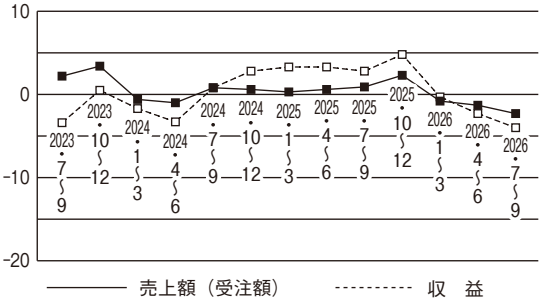
〔経営上の問題点〕



6．小売業

現　状	見通し
◔	◔

〔売上額、収益の動き（対前年同期比）〕



◇概　況

小売業における今期の前年同期（1年前）と比較した増減率の平均は、売上額で▲2.3%、売上数量▲3.3%、収益は▲4.0%となった。前期比では、売上額、売上数量で1.0ポイント、収益で1.8ポイントといずれも減少となった。

来期については、売上額は0.5ポイント減少の▲2.8%を予想の一方、売上数量では1.5ポイント増加の▲1.8%、収益では3.3ポイント増加の▲0.8%を予想している。

今期の売上額D.I.は、前期比15.0ポイント低下の▲20.0、収益D.I.でも前期比10.0ポイント低下の▲25.0となり、売上額、収益ともに前期での予想に近い結果となった。

来期についてのD.I.は、売上額で今期比15.0ポイント低下の▲35.0を予想の一方、収益では今期比10.0ポイント上昇の▲15.0を予想している。

在庫水準は、適正が70.0%、やや多いが20.0%、やや少ないが10.0%であった。

経営上の問題点としては、「売上・受注の停滞・減少」が25.0%で最上位となり、次いで前期6位であった「店舗の狭小、老朽化」が9.5%（前期比+3.5%）であった。

（自動車）

県内の2026年7～9月（3カ月）の新車登録台数は、貨物車と普通乗用車が順調に推移し、前期（4～6月）比で104.2%と若干の増加、前年同期間の実績比でも109.8%と2期連続の増加となった。

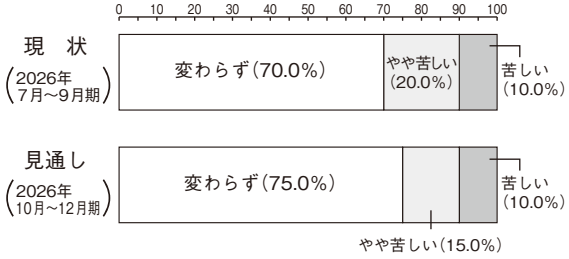
そのうち、普通乗用車では、8月の落ち込みが見られたものの、各メーカーの新型車投入効果等により前期比で増加の一方、小型乗用車については、新型車が少なく買い控え等があったと思われ、乗用車合計では前期比で若干減少となった（前期比97.8%）。また、前年同期間の実績比では103.7%と2期連続の増加となった。

（軽四自動車）

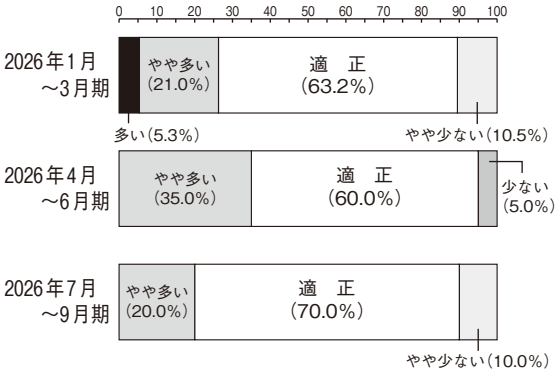
県内の2026年7～9月（3カ月）の軽四自動車の新車台数は前期実績を上回ったが（前期比102.5%）、前年同期間での実績比では90.1%と2期連続で減少となった。

中古車（乗用）については、前期の反動減や8月の落ち込みが影響し、前期比で75.3%と大幅に減少し、前年同期間の実績比でも95.2%と6期ぶりに減少となった。

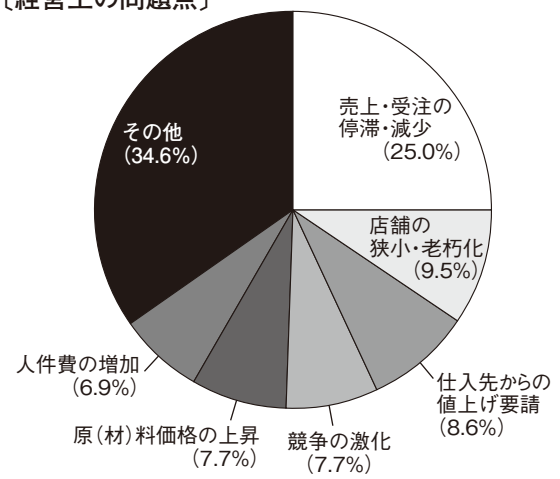
〔資金繰りの現状と見通し〕



〔手持ち在庫の動き〕



〔経営上の問題点〕



〔参　考〕

〔自動車：新車登録台数〕

期間＼項目	普通乗用	小型乗用
2025年10月～12月	3,281	2,095
2026年1月～3月	3,643	2,205
4月～6月	3,673	2,189
7月～9月	3,686	2,049

（富山県自動車販売店協会 調べ）

〔軽四自動車：新規検査状況〕

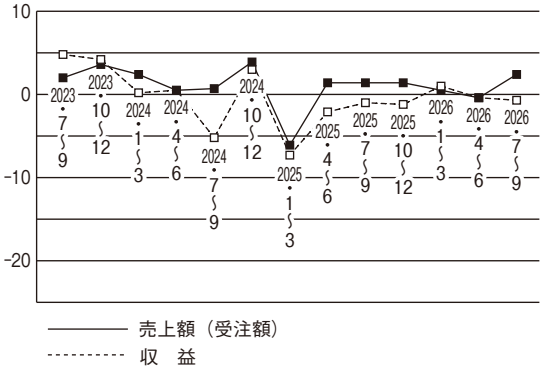
期間＼項目	新　車	中古車
2025年10月～12月	3,350	1,451
2026年1月～3月	3,937	1,424
4月～6月	3,382	1,965
7月～9月	3,468	1,480

（富山県軽自動車検査協会 調べ）

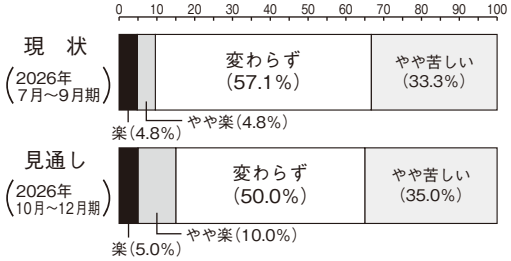
7．サービス業

現　状	見通し
	

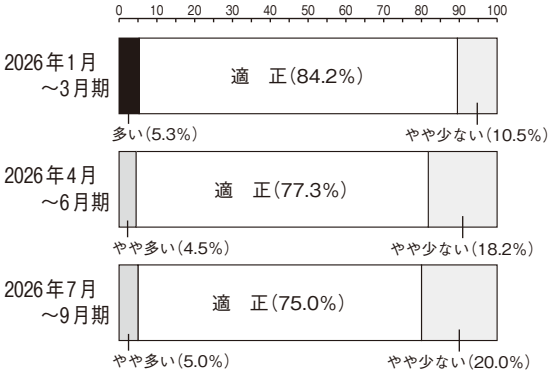
〔売上額、収益の動き（対前年同期比）〕



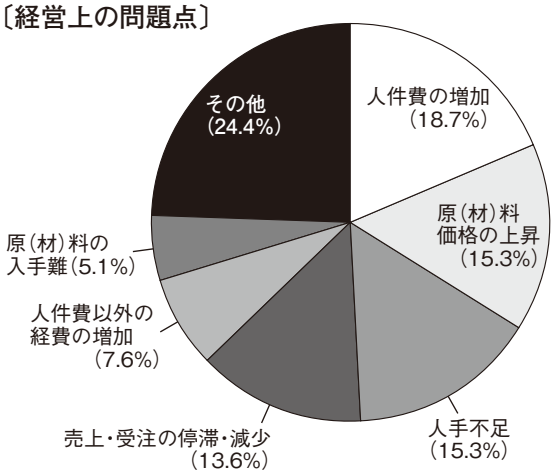
〔資金繰りの現状と見通し〕



〔手持ち在庫の動き〕



〔経営上の問題点〕



◇概　況

サービス業における今期の前年同期（1年前）と比較した増減率の平均は、売上額2.4％、売上数量2.1％、収益▲0.7％となり、収益で2期連続のマイナスとなった。

来期については、売上額で3.1％、売上数量2.6％、収益▲0.5％を予想している。

今期の売上額D.I.は、前期より9.4ポイント低下し▲9.5、収益D.I.は3.2ポイント低下し▲25.0となり、いずれも前期での予想より低下幅は小さくなる結果となった。

来期の売上額D.I.は、今期より19.5ポイント上昇の10.0、収益D.I.も14.5ポイント上昇の▲10.5を予想している。

経営上の問題点としては、前期6位の「人件費の増加」が18.7％（前期比＋12.7％）で最上位となり、次いで「原（材）料価格の上昇」と「人手不足」が15.3％で2位であった。

〔参　考〕

〔高速自動車道利用状況〕　（単位：千台）

IC名	年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
高岡北（能越）	2025年	408	343	462	440	442	416	460	490	460	413	466	446
	2026年	369	386	456	462	495	453	487	507	463			
小矢部東（能越）	2025年	175	149	206	202	223	194	211	239	199	210	215	194
	2026年	160	163	209	206	236	195	219	252	221			
小杉（北陸）	2025年	256	228	305	303	323	294	321	334	303	327	312	296
	2026年	236	245	307	312	333	300	325	345				

各インター通過（乗降）台数の合計
能越道（高岡北IC～高岡IC間）：国土交通省富山河川国道事務所調べ
能越道（小矢部東）：能越自動車管理事務所調べ
北陸道（小　　杉）：中日本高速道路㈱金沢支社調べ

8．設備投資動向

設備投資の概要

今期において1,000万円以上の設備投資を実施したと回答した企業は13社となり、前回調査時と同数であった。内訳では、生産等機械設備に関わるものが６社、社屋、工場、店舗等の新・増設や改修・保守等が４社、トラック等車両の購入、システム更新が各１社、その他１社であった。

今後３ヶ月の間に1,000万円以上の設備投資を予定している企業は15社で、前回調査時において実施予定と回答した企業数から４社減少した。

今後の設備投資の目的

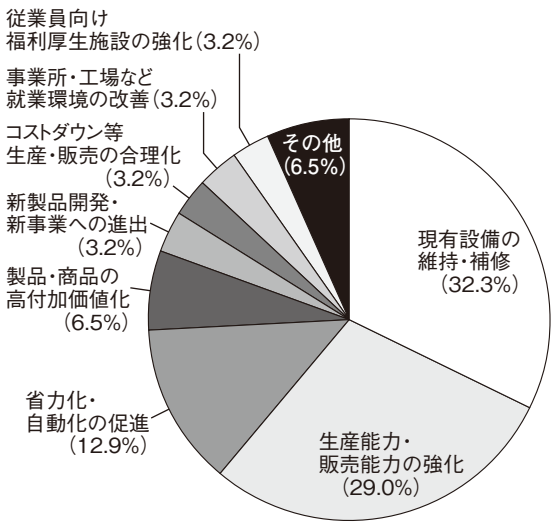
今後、設備投資を予定している企業の目的は

現有設備の維持・補修……（32.3%）
生産能力・販売能力の強化……（29.0%）
省力化・自動化の促進……（12.9%）
製品・商品の高付加価値化……（ 6.5%）
新製品開発・新事業への進出……（ 3.2%）
コストダウン等生産・販売の合理化……（ 3.2%）
事業所・工場など就業環境の改善……（ 3.2%）
従業員向け福利厚生施設の強化……（ 3.2%）
その他……（ 6.5%）

今回の調査では、『現有設備の維持・改修』が前回に続き最上位（前回比▲1.0%）となり、『生産能力・販売能力の強化』が前回より7.8ポイント上昇し2位であった。

また、前回の調査では回答が無かった『新製品開発・新事業への進出』『従業員向け福利厚生施設の強化』がいずれも3.2%で5位であった。

〔今後の設備投資の目的〕



設備投資の判断基準

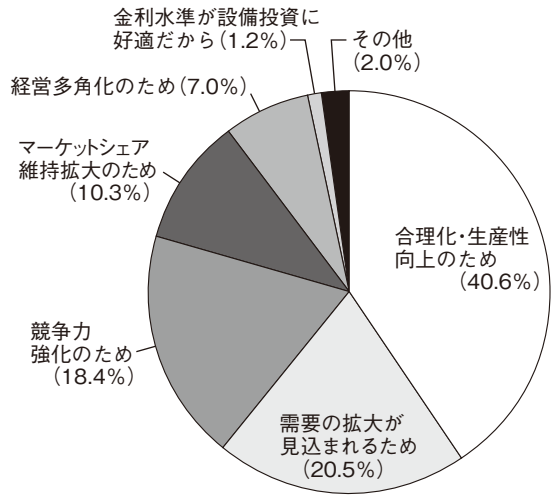
今後の設備投資に当たっての判断基準について

合理化・生産性向上のため……（40.6%）
需要の拡大が見込まれるため……（20.5%）
競争力強化のため……（18.4%）
マーケットシェア維持拡大のため……（10.3%）
経営多角化のため……（ 7.0%）
金利水準が設備投資に好適だから……（ 1.2%）
その他……（ 2.0%）

前回に続き最上位となった『合理化・生産性向上のため』については、すべての業種で判断基準のトップ項目となった。

また、『経営多角化』については、製造業、不動産業を除く業種で前回より回答率が上昇した。

〔設備投資の判断基準〕



経営者・従業員の皆様へ耳寄りな情報！！

「たかしんマイカーローン特別金利キャンペーン」のご案内

このたび高岡信用金庫では、長引く物価高や今後の金利上昇に不安を持たれている地域のみなさまのために、特別金利（固定金利２.３０％または２.６０％）のマイカーローンをご用意させていただきました。お車の購入等をご検討の場合は、お取引の店舗または下記までご連絡願います。

当金庫は、地域の皆さまに愛され、親しまれる身近な信用金庫を目指し、より一層の金融サービスを提供してまいりますので、今後ともご愛顧のほど宜しくお願い申し上げます。

記

【 マイカーローン特別金利キャンペーンの概要 】

１．特別金利キャンペーンをご利用いただける方（ＷＥＢ完結マイカーローンの場合）

- 満18歳以上で安定継続した収入のある方かつ保証会社の保証が受けられる方
- 以下のお取引のうち、いずれか１つ以上のお取引をいただいている方
  - ① カードローン（しんきん保証基金付）をご契約いただいている方
    （マイカーローンとの同時申込も可能です）
  - ② 給振口座に当金庫の口座をご指定いただいている方
  - ③ 年金振込口座に当金庫の口座をご指定いただいている方

２．キャンペーン期間

令和８年10月19日（月）から令和９年３月31日（水）

３．ご融資金額

1,000万円以内（１万円単位）

４．ご融資期間

３ヶ月以上10年以内

５．ご融資利率（固定金利、保証料込み）

期間７年以内	２.３０％
期間７年超	２.６０％

その他の商品概要等、詳しくは、当庫ホームページをご覧いただくか、店頭または担当者までご相談ください。

本件にかかる問い合わせ先

高岡信用金庫　営業推進部
TEL：0766-23-1225
E-mail：gyoumu@takaoka-shinkin.co.jp

高岡信用金庫

〒933-8611　高岡市守山町68番地
TEL 0766－23－1222（代表）
https://www.shinkin.co.jp/takaoka/